

令和2年度(2020年度)決算の概要

令和2年度における熊本市の一般会計決算は、歳入が4,549億円(前年度比プラス586億円)、歳出が4,444億円(前年度比プラス561億円)となりました。歳入と歳出を単純に差し引くと104億円の黒字の計算になりますが、翌年度へ繰り越すべき財源が53億円あり、差し引いて考えると、実質収支51億円の黒字となりました。この黒字は、令和3年度に繰り越され、歳入の一部となります。

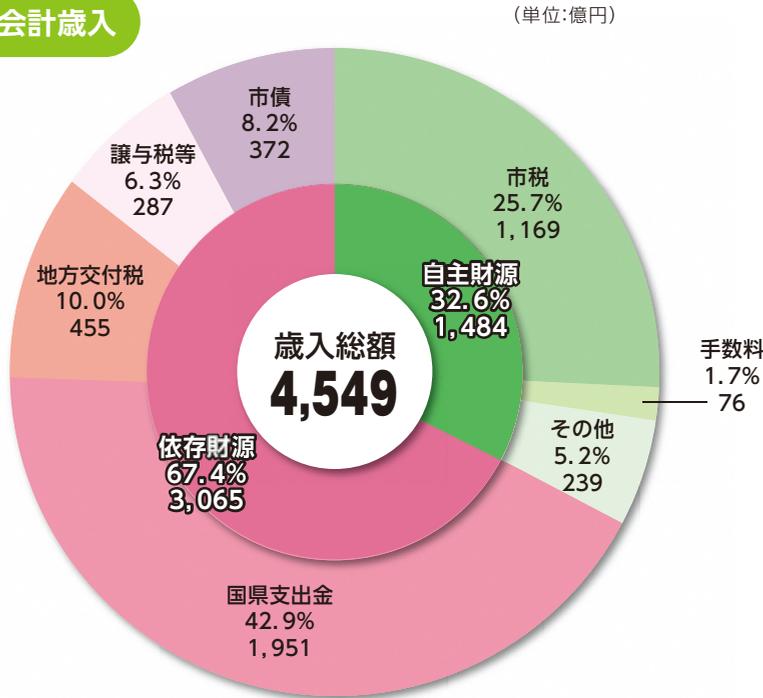
〈一般会計・特別会計〉

会計名	収入総額	支出総額	収入支出差引額
一般会計	4,548億5,378万円	4,444億4,502万円	104億 876万円
特別会計	2,093億7,181万円	2,010億 490万円	83億6,691万円
合計	6,642億2,559万円	6,454億4,992万円	187億7,567万円

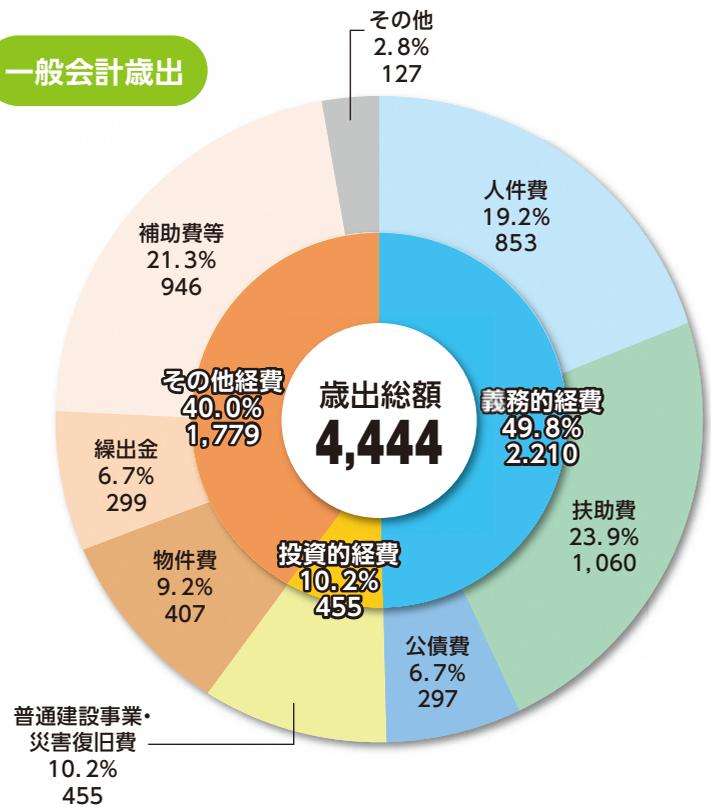
〈企業会計・収益的収支について〉

会計名	収入総額	支出総額	収入支出差引額
病院事業会計	160億7,520万円	142億7,281万円	18億 239万円
水道事業会計	130億9,455万円	102億5,899万円	28億3,556万円
下水道事業会計	193億1,203万円	175億3,498万円	17億7,705万円
工業用水道事業会計	536万円	498万円	38万円
交通事業会計	18億1,604万円	20億2,063万円	△2億 459万円

一般会計歳入



一般会計歳出



予算決算委員会の審査概要

全議員で構成する当委員会で、令和3年度の当初予算及び関連議案について審査を行いました。質疑の詳細は、熊本市議会ホームページの会議録等をご覧ください。

総括質疑 (9月13日、9月14日)

熊本自民

- 新型コロナウイルス感染症による歳入歳出への影響**
当初予定していた歳入歳出に対し、新型コロナウイルス感染症による影響は、どのようなものがあったか。
- 新型コロナウイルス感染症にかかる緊急対策**
年度内の支援に家賃と地代で格差が生じた。別途地代についての支援を行うべきではなかったか。
- 「感染防止実践店」の県との連携**
感染防止対策認証制度の導入にあたり、県と連携が図れず、制度の拡充が段階的となったのはなぜか。
- 接待を伴う飲食店の従業員等に対するPCR検査**
中心市街地での飲食店へのPCR検査の成果はどの程度あったと考えるか。
- 企業及び市役所のテレワーク支援**
市役所として具体的な支援を積極的に行ったか。日常業務に支障が出なかったか。



- 本庁舎の基礎杭及び地下連続壁の効果等に関する耐震性能の検証業務委託について**
本事業において、なぜ指定性能評価機関からの評価を受けようとしなかったのか。また、評価を受けた場合はどの程度予算が増額したのか。
- 会計年度任用職員制度の運用について**
不祥事が相次いだ会計年度任用職員。どの様な基準で採用したのか。職員としての研修はどのように行ったか。
- 令和2年度の少子化対策**
2年間で年間出生数が665人減っている。令和2年度の少子化対策に何が足りなかったのか。
- 教育施設の適切な管理**
学校施設の現状を理解した上で予算措置を行えたのか。また、十分な施設の維持管理ができたと考えているか。
- ごみ減量に向けた取り組みは**
ごみ減量に向けて力を入れた事業、新たに取り組んだ事業は。ごみ減量の目標達成ができない理由をどのように分析しているか。
- 雇用創出に繋がる取り組みについて**
産学連携、新製品開発支援などによる製品化の令和2年度までの成果や、企業立地の本年度の成果とそれによる雇用の創出は何人か。